

土木技術者個人が保有する資料の保存と継承について – 土木学会第 70 代会長 野瀬正義旧蔵資料 –

北海道教育大学教育学部札幌校 正会員 今 尚之
土木学会附属土木図書館 正会員 坂本真至

1. はじめに

土木工学分野の記録資料の保存、活用は、土木工学の発展はもとより、市民との対話や地域開発、まちづくりにおいても重要な役割を果たすものである。これまで、土木図書館委員会では、歴史的な資料を中心に収集と保存、さらに、デジタルアーカイブスとして公開することに取組んできた。2005 年度より、年次学術講演会に情報資料に関する共通セッションが設けられ、これらの取組みについては、継続した報告が行われている。

今回、戦後の大規模水力発電開発に取組んできた、野瀬正義氏が保有していた資料類について概要を掌握する機会を平成 21 年度にいただいた。その結果ならびに土木技術者個人が保有する記録資料の保存、活用について検討した結果を報告する。

2. 本報告の問題意識

近代の工学技術分野では、技術開発やその適用過程において、技術者個々人や専門業者などが、その関わりのなかで、各種の資料を入手しながら事業を遂行する。その結果、事業終了後もそれらの資料を保有していることが多い。

たとえば、鉄道の建設工事では、専門知識を持った技術集団が不可欠である。また国による建設も多く行われた。このため工事記録などは国の出先機関や専門家あるいは事業者個人が保有し、地元にはほとんど残っていない例も多い。旧国鉄土幌線の建設では、糠平～十勝三股間の記録は、上土幌～糠平間に比べ数がわずかしかなかった。しかし、コンクリートアーチ橋りょうの建設に携わった丹野組(旭川)は、自らが施工したタウシュベツ川橋りょうの建設を、写真により記録し保管していた。この工事は、丹野組の歴史のなかできわめて大きな意味があり、先代が写真や各種の工事記録等を残したと

いう。このような例からも、技術者などの専門家や建設事業者個人は、自らの思い入れが強く、後世に伝えたいことがある事業の記録を保管、保存している可能性が高いことは理解されよう。

しかし、それらの記録は、一個人がその立場の範囲で入手できるものであり、また、思い入れなどによって保有していたと考えられることから、包括的、系統的とはいいがたい。さらに、一個人あるいは一事業者であることから、膨大な数となり、それらは分散して残されている。活用に向けたエネルギーは莫大なものであることは、容易に想像できる。

しかしながら、それらの記録は、このままでは逸失してしまうことは明らかである。地域にとってかけがえのないものであり、あわせて土木の営みを理解する上で貴重な資・史料となる記録である。それらの継承、保存に向け、どのような方針を立て、収集あるいは受入れを行い、保存するべきか、そのあり方の検討が急がれると同時に、検討のための具体的な実践の積み重ねが必要である。

3. 野瀬正義旧蔵資料

(1) 野瀬正義氏

野瀬正義氏は、黒部第4ダム建設で著名な土木技術者である。1936(昭和11)年に東京帝国大学を卒業し、水力電力開発を専門として、日本発送電、電源開発、関西電力で活躍をした。戦後まもなく発電した電源開発では、中堅技術者として佐久間ダム、御母衣ダム建設計画を具体的に進めた。関西電力では、黒部川第四水力発電所建設事務所長として、難工事が続いたいわゆる黒四ダムを完成に導いた。さらに、国際大ダム会議の日本代表として活躍し、土木学会代70代会長を務めるなど、戦後高度経済成長における、わが国の電力土木界を代表する一人として評価されている。

キーワード アーカイブス、技術者、記録の保存、技術の継承、土木図書館、野瀬正義

〒002-8501 北海道札幌市北区あいの里5条3丁目 TEL&FAX:011-778-0295, nowkon@nifty.com

(2) 資料調査に至る経緯

野瀬正儀氏は、神奈川県南部の自宅書庫に、多くの書籍、灰色文献、ファイル、書簡、パンフレットなどを保存していた。氏の逝去後、遺族から土木学会関係者に、数多くの記録や書籍などが遺されていること、土木工学発展に役立つものであるなら、土木学会で活用してほしいことなどの話があり、土木図書館委員会メンバーによる訪問調査が行われた。

その後、いくつかの経緯を経て、建設産業図書館（東日本建設業保証株式会社）の書庫で一時保管を行うこととなった。

(3) 資料のあらまし

野瀬氏の経歴から、佐久間、御母衣などの戦後復興から高度経済成長期の大ダム建設に関わる書簡、ファイル文書や灰色文献が多い。それらの他に、国際大ダム会議に関連した書類、書簡、書籍類も多く、また、関西電力時代の記録なども遺されていた。保管されている資料のあらましを表2に記載する。

4. まとめと課題

野瀬正儀氏が遺した、諸外国のダムを各々紹介する洋書は、コレクションともいえる量と質がある。また、佐久間、御母衣、黒部ダム建設にあたっての当時の生々しい現状を伝える書簡や記録などは貴重なものと考えられる。このほかの部内資料などは技術者の考えや意思決定を考察する上でも重要な役割を果たすと思われるが、公開については慎重さが求められるよう。記録、資料は痛んでいるものも多く、保存や公開に向けた、早急な手当てが必要である。

今後、①保存することが望まれる記録や書籍類の特定。②保存が望ましい機関等への働きかけ。③保存と公開の体制やルールづくりなどの課題がある。

これらの課題解決は、今後の同様事案に対する実践事例ともなろう。しかし、それにもまして、現在地での今後の保管が困難となりつつある現状から、次の保管先の確保と、資料目録の整備が急がれる。

参考：土木分野の資料収集とその保存・利活用の課題に関する一考察、土木学会年次学術講演会講演概要集 CS12, pp.1-2, 2005 年

謝辞：本調査にあたり、協力くださいました関係の皆様方、特に建設産業図書館の皆様方に謝意を表します。

表 1 野瀬正儀氏の略歴

1912 年	神戸市生まれ
1936 年	東京帝国大学土木工学科卒業
1936 年	富士電力入社
1942 年	電力国家統制により日本発送電社員となる
1951 年	戦後の電力再編成で関西電力に移籍
1952 年	電源開発に出向。水力計画課長、建設部次長、土木部次長を歴任。佐久間ダム、御母衣ダム建設に従事
1959 年	関西電力に戻り、関西電力黒部川第四水力発電所建設事務所長などを歴任。ダム、発電所を完成させる
1971 年	関西電力専務
1975 年	電源開発副総裁（～83 年）
1982 年	土木学会第 70 代会長
2002 年	逝去

表 2 保管されている記録資料や書籍類のあらまし

和 書	・ 戦前発行の土木工学書 ・ 内海清温、井上五郎、大田垣士郎や、同期生らの追悼録など ・ 上椎葉ダム、丸山ダム（旧）、和知発電所、喜撰山発電所、黒部川第 4 発電所などの工事報告等
洋 書	・ 海外ダムの紹介書籍や写真集 ・ 1940 年代のコロラド川開発や TVA などを紹介する書籍やテクニカルレポート ・ アメリカ開拓局設計基準など
和雑誌	・ 大ダム、ダム技術、電力土木、発電水力等の 1980～90 年代の雑誌類 ・ 電力中研技術報告書（1960～1970 年代）
洋雑誌	・ 1970～1980 年代の ASCE Transaction ・ ICOLD 大会論文集、Report、Bulletin
灰色文献	・ 米国電気事業調査報告書（1950） ・ 電源開発部内技術報告書（1950 年代） ・ 関西電力内部報告書（喜撰山発電所、和知発電所、美浜発電所等） ・ 電源開発部内検討資料（副総裁時代のもの） ・ 職場、同窓会等の名簿
ファイル	・ 日本発送電時代に関わりがあった O.C.I 勧告の原文つづり、意見書やレポート ・ 佐久間、御母衣ダム建設にあたり、アメリカの技術コンサルタント等との往復書簡つづり ・ 電源開発に移籍するまでの自筆英文履歴 ・ ICOLD Circular Letter などのつづり（1960～1980 年代） ・ ICOLD Summary of Questionnaires(1970 年代) ・ ICOLD Bulletin に対する意見など（1990 年頃） ・ 国際大ダム会議参加および日本開催時における事務関係のつづり ・ 日本大ダム会議での会長引き継ぎ書類つづり
図面など	・ 田子倉発電所新設工事、御母衣ロックフィルダムおよび発電所図面、佐久間ダム仮設備関係図集等
その他	・ 野瀬正儀氏の学位請求論文控えおよび実験データ集、自筆のノートや教科書原稿、ユーゴスラビアのダムに関する自筆原稿など雑誌の依頼原稿下書き類、ICOLD1984（日本大会）での建設大臣英文スピーチ原稿